

令和6年度 江戸川区立小岩第三中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◇自他を大切にし、思いやりのある人 ◇心身ともに健康で、豊かな実践力のある人 ◇積極的に学習し、考えて行動できる人 ◇文化や伝統を尊重し、社会に貢献できる人		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	心を耕し、身体を鍛え、学力を伸ばす学校 あたたかい心をもつ、あいさつする、自律の精神をもち、自身で考えて行動できる生徒 人としてあたたかさ、優しさをもち、保護者や地域と連携しながら生徒の学力・体力の向上に尽力する教師
前年度までの本校の現状	成果 1. ICTを活用した授業の推進が進んだ。 2. 不登校対応が組織的に行われ、受け入れや支援の体制が整備された。	課題	1. 学力向上を目指した取り組みを更に充実させる。 2. 運動意欲を向上させる取り組みに努める。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進 ○基礎基本の習得 ○家庭での学習習慣を身に付けさせる	○主体的・対話的で深い学びについて校内で研修を行う。教科アドバイザーの授業観察と指導助言を受ける。 ○放課後補習教室の受講を推進し、数学・英語の基礎的事項の理解を図る。 ○定期考査の前に江戸川っ子study week!期間を設け、家庭学習の習慣を身に付ける。	○生徒への授業アンケートで、授業の理解度の肯定的回答が80%以上であること。 ○放課後補習教室の出席率80%以上。	B		B	○全教科のアンケートで授業の理解度に対する肯定的回答が80%以上であった。 ○放課後補習教室の出席率はほぼ80%以上であったが、日によって多少少ないことがあった。 ○家庭学習については指導を続けているが、習慣化は個人差が大きい。	A	○先生方が楽しそつに授業をしてきている。 ○落ち着いて授業を受けていました。 ○掲示物が楽しかったです。					
	○読書科の更なる充実	○朝読書の実施、学年ごとのブックトーク、ピプリオバトルの実施、ブックポスターの作成を行う。	○作成した成果物は学芸発表会等で掲示する。	A		A	○朝読書は確実に実施しており習慣化できている。ブックトーク、ピプリオバトルも各学年で計画どおり進んでいる。	A	○図書室を更に活用して欲しい。					
体力の向上	○基礎体力を高め運動意欲を向上させる	○体育授業の開始時に必ず補助運動を行う。また、体力調査の準備も計画的に行い、結果の向上に努める。また、生徒たちが楽しんで取り組めるダンスなどを取り入れる。	○全学年で都の体力調査の結果が都平均を上回ることを目指す。	B		B	○体育授業での補助運動は欠かさず行っている。また、生徒が楽しんで行える内容も工夫して行っている。日常的に運動をしている生徒はだいぶ体力はついてきているが、運動の機会がほぼ授業のみの生徒の体力向上が課題である。	B	○楽しそつに取り組める授業をありがとうございます。					
共生社会の 実現に向けた 教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育活動の推進	○教室を整理整頓し、使用教材もすべてUD化を図る。	○学期に1回は授業観察を行い、状況を把握する。	B		B	○学期1回の授業観察と教室環境のチェックを行った。	B	○よくできていると思います。					
	○日本語指導の充実	○個別指導、日本語教室に通う体制を整える。また、担当教員、指導員と密に連絡を取り、生徒の日本語理解度の把握に努める。	○日常会話に困らなず日本語で高校受験できるレベルを目指す。	B		B	○個別指導、日本語教室で学習する体制は整えられている。レベルアップにはまだ時間を要する。	B	○頑張って習得して欲しいです。					
	○特別支援教育の充実	○校内委員会を定期開催し、生徒の情報共有と対応について検討する。副籍交流を通じて共生社会の理解を高める。	○校内委員会は時間割に設定し、基本的に毎週実施する。	A		A	○組織的な対応ができており、個に応じた適切な支援ができています。	A	○それぞれの生徒に合った適切な支援をお願いします。					

不登校・いじめ対応の充実	○不登校対応の充実	○不登校対応教員を中心に生活指導部会で対応を検討し、全教職員共通認識のうえで対応する。	○別室指導支援員、ステップサポーターの活用で登校支援や別室指導を充実させる。	A	A	○別室の環境整備と支援員の配置で生徒の学習環境を整えられた。	A	○別室が充実していて驚きました。					
	○いじめの未然防止と いじめの兆候への迅速な対応	○日常から生徒とコミュニケーションを取り、アンケートも定期的に行い、友達関係や悩みごとの把握に努める。兆候が見られたら、全教職員で組織的に対応する。	○全校生徒が学校に安心して通えると感じられることを目指す。	A	A	○定期的なアンケートを実施し、状況把握と早期対応ができている。	A	○いじめは絶対に許さないでほしい。					
	○hyper-QUの実施と活用	○年に2回hyper-QUを全学年で実施する。	○結果から学級の状況を把握し、学級学年経営に活用する。	B	B	○1回目を実施し、結果の分析をして学級学年の状況把握を行っている。	B	○どの生徒も安心して過ごせるようにしてほしい。					
学校（園）の 地域社会に 開かれた 実現	○学校ホームページの定期的な更新	○行事だけでなく日常の校内の様子を発信し、家庭や地域に知らせる。	○ホームページ担当が基本的に毎日更新する。	B	B	○さらに内容の充実にも努める。	B	○行事があるときは見えています。					
	○学校関係者評価の実施	○学校評議員会で意見をもらい、教育活動の更なる充実と改善を図る。	○学校評議員会は年2回行い、その都度意見交換と評価を行う。	B	A	○予定どおり行っている。	A	○引き続きよろしくお願いいたします。					
	○学校公開の充実	○テトルやホームページで情報を発信し、保護者や地域の方々の参観を呼びかける。	○授業内容を事前連絡する。また、事後のアンケートを実施し、保護者や地域の意見や感想を次回に反映させる。	B	B	○概ね実施できている。	B	○情報をテトルで配信してもらえると助かる。 ○もう少し早く情報がほしいと感じるときがある。					
教育の 特色ある 展開	○生徒の自主的な活動の推進	○生徒会役員や委員長などリーダーの自主的な活動を推進する。	○月に1回の生徒会朝礼を役員が運営し、委員会活動の報告をする。また、随時生徒会通信を発行する。	A	A	○生徒たちは意欲的な活動ができている。	A	○生徒たちの頑張りがよくわかります。					
	○働き方改革の推進	○定時退勤日の設定や、休暇の計画的な取得を推進する。	○定時退勤日は全員で声をかけ合う。お互い協力して休暇を取得し、心身のリフレッシュに努める。	B	B	○計画的な休暇の取得に努めている。勤務時間の短縮は引き続き課題である。	B	○遅くまで残っている先生、土日勤務されている先生が多く心配になることがある。					